



碧高祭

体育部門応援
9月5日(火)
体育部門競技
9月6日(水)
文化部門
9月7日(木)

～輝け碧高生！新時代を啓け！！～

9月5日～7日、碧高祭が行われました。応援では4つの分団がチア・応援に分かれ、パフォーマンスを行いました。弾けるような笑顔やキレのある振りがびつたりと揃い、この夏の練習の成果を存分に押し出しました。競技はあいにくの天気となりましたが、自団の勝利のため汗を流し、全力で仲間を応援し、相手の健闘を称えました。文化部門では、各クラスの出し物と文化発表、有志のステージ発表を楽しみ、午後からは各団の2年生が、劇・ダンス・動画発表などを行いました。

校長コラム 第8回 「公孫樹について」 校長 鈴木尚哉

碧南高校の正門から入ってすぐ東側には写真のように「高松宮殿下御手植記念樹」と記された石碑があり、その裏側には「公孫樹 昭和四年十一月二十五日」という記載があります。

この「記念樹」とは、石碑のそばにある銀杏(いちじょう)の木のことをさしています。高松宮殿下とは、かつて存在した「高松宮家」の当主であり、明治末から昭和時代を生きてこられた「高松宮宣仁(のぶひと)親王」という方のことです(以下、現代の宮家に対する一般的な呼称に倣って「高松宮様」と表記します)。高松宮様は現在の天皇陛下より2代前の昭和天皇の弟にあたり、明治38年(1905年)に大正天皇の三男として生まれました。海軍兵学校・海軍大学校で学び、その後、戦艦比叡の砲術長、海軍横須賀航空隊教官、大本営海軍参謀などを務め、戦争直前や戦中は戦争に対しては否定的・反対論を唱えていたといわれています。

高松宮様は昭和4年に碧海郡内の農業と学校教育の状況を視察された際に開校後間もない、当時「碧南国民学校」という名称であった碧南高校に来校されました。来校に際して「菓子料」(お菓子などの代金)という名目で頂いたお金をもとにした基金を創設し、その利子をもととして優秀な生徒の表彰に充てており、これは昭和20年まで続いていました。写真のメダルは表彰された生徒に贈られたものです。

なお、石碑の裏に書かれた「公孫樹」とは銀杏(いちじょう)の別名です。銀杏は長寿の木であり、公は「祖父」を意味し、「銀杏は植えると孫の世代になり実を食べることができる」といういわれに基づくものです。学校が末永く続くことで銀杏の実がなるように地域の人材を育て、地域が繁栄していくことを願い、この木を選んだと考えられます。

ちょうど写真を撮影した時に、この銀杏の木には実がたくさんなっていました。碧南高校は令和8年度に創立100周年を迎えます。この約100年の間に様々な歴史を刻んでおり、この高松宮様のご来校は、碧南高校の歴史の中で記憶しておくべき出来事のひとつといえます。



↑ 正門東側、銀杏の木のそばにある石碑。



↑ 碧南国民学校で優秀生徒の表彰の際、生徒に贈られたメダル。

碧高生 活動紹介 碧高祭を終えて ～各分団長のことば～

- 赤誠分団長 | 松本 晴大 (高浜市立高浜中出身)**

僕は最初、分団長をやる気があまりありませんでした。誰もやる人がいなくなったら挑戦してみようかな、くらいの気持ちでいて、分団長決め当日、立候補者がおらず、思わず手を挙げていました。

皆の前で話すことはあまり得意ではなく、毎回緊張しながら話をしました。分団長としての仕事は少ししかできなかったけど、団の仲間たちに支えられ、何とか無事に当日を迎えることができました。碧高祭を楽しく終えられたことを、赤誠分団の皆に感謝したいです。最高の思い出づくりができた3日間でした。ありがとうございました。
- 青陵分団長 | 岩満 蓮司 (高浜市立南中出身)**

僕はこの碧高祭で初めて団長のようなまともな役を任せられ、やり遂げることができた、正直とても不安でした。練習が始まると、他の団に比べて応援の練習が全然進んでいないことに気がきました。応援団長と話し合っ、応援とチアが合同で行う踊りを取り入れたり、応援の質を少しでも上げるため様々な工夫を試したりして、練習に励みました。本番は緊張したけれど、自分も全力を出せたい、皆も「やり切った!」と言って、とても嬉しかったです。優勝はできなかったけど、青陵団のみならず頑張った碧高祭は、一生の宝物になりました。
- 白虎分団長 | 樋口 颯大 (高浜市立高浜中出身)**

僕たちの分団は、運動神経の良い子や元気な子が少なく、とても不安な中練習が始まりました。応援団長や他の団員と協力し、率先して声を張り練習の場を盛り上げ、全員で楽しみながら練習することを心がけました。本番では、運動部門と文化部門で優勝、さらに総合優勝も果たすることができました。

3年生はもちろん、後輩たちも一丸となって頑張ってくれたおかげです。頼りない分団長だったけれど、最後に僕を表彰台に立たせてくれた白虎団の皆に感謝しています。大好きです！ありがとうございました！
- 玄黄分団長 | 北出 陽 (碧南市立中央中出身)**

私が今回碧高祭を通じ感じたことは、団結力の大切さです。初めは初対面の人との交流もあり、うまくいかない事も多かったのですが、団全員が目指す優勝という目標に向かって、段々団員の団結力が強くなり、練習の質が上がっていき、後半には学年関係なく教え合うなど、素晴らしい姿が見られました。各部門の優勝は叶いませんでしたが、練習の過程や本番全力で出し切れたことなどの経験は、自分にとっても良い影響を与えてくれたと思います。

分団長として、周りの仲間にも助けられながら責任感を持って仕事ことができました。碧高祭での経験を活かし、今後も碧南高校生としてふさわしい姿を見せていきたいと思っています。